

- 2010/01/30 外国人研修労働の違法性認定：熊本地裁
- 2010/01/29 憲法第7次改正：ジャー副大統領の完勝
- 2010/01/28 大麻所持で日本人逮捕
- 2010/01/27 革新の韓国・ネパールと立ち枯れの日本
- 2010/01/25 倒産JALの能天気全面広告
- 2010/01/24 Facebookの恐怖・再説
- 2010/01/23 馬場さんと「法の支配」
- 2010/01/22 外国人研修制度の欺瞞性：報道ステーション
- 2010/01/20 ネパール人研修労働者受入
- 2010/01/13 マオイストで儲ける資本主義
- 2010/01/12 マオイストとインドと国王：方向転換か？
- 2010/01/11 バタライ博士絶賛：プラシャント・ジャー
- 2010/01/09 プラチャンダ／バタライ分割統治工作：インド
- 2010/01/07 Trust me! 信じられない？
- 2010/01/06 なめられる日本とネパール：欧米瘦身広告
- 2010/01/05 連邦制を国民投票で：スジャータ・コイララ副首相
- 2010/01/03 グーグルで秘所をのぞく
- 2010/01/02 タマン自治州宣言の非合法性と科学性
- 2010/01/01 神仏の新春長崎

2010/01/30

[外国人研修労働の違法性認定：熊本地裁](#)

谷川昌幸(C)

熊本地裁は、1月29日、外国人研修・実習生の中国人女性4人を働かせていた天草市の縫製工場主と仲介機関に対し、過酷な違法労働をさせたとして、慰謝料などの支払いを命令した(朝日, 1/30)。

判決によれば、「午前3時頃まで就労させ」、「残業代は時給300円」だった。そして、「縫製作業は研修とは名ばかりの労務の提供」であった。

研修実習生は、パスポートや預金通帳を取り上げられ、法定労働時間を大幅に上回る過酷な労働をさせられており、「奴隷」(原告)のような状態だったという。熊本地裁判決は、縫製業者だけでなく、仲介機関の「協同組合」の不法行為責任をも認めた。

原告は、国際研修協力機構 (JITCO) に対しても賠償を要求したが、判決では「協力機構に法的義務はない」とされた。しかし、直接的な法的責任は認められなかったとはいえ、JITCOに政治的・道義的責任があることは明白である。

先に述べたように、ネパール側報道によれば、まもなくJITCOは職員をネパールに派遣し、ネパール側と研修労働者派遣について協議するらしい。しかし、いまの外国人研修・実習制度のままだと、問題が起こる危険性が極めて高い。

日ネ友好を大切に思うなら、われわれは、外国人研修・実習制度のこうした実態をネパール側に伝えるべきであろう。日本では、テレビや新聞で繰り返し報道され、告発本も何冊も出され、しかも裁判所ですらこの制度による「違法労働」「人格権の侵害」の事例を認めたのだ。知らないのは当事者のネパール人民だけ、というのではあまりに信義誠実に反する。

2010/01/22 [外国人研修制度の欺瞞性：報道ステーション](#)

2010/01/20 [ネパール人研修労働者受入](#)

[対日ネパール人輸出、あるいは新三角貿易](#)

[拝啓 マオイスト労働相殿：これが研修奴隷だ！](#)

[共産革命と対日「人民」輸出](#)

21:50 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)

2010/01/29

[憲法第7次改正：ジャー副大統領の完勝](#)

谷川昌幸(C)

1月28日、制憲議会で暫定憲法第7次改正案が可決された。改正の要点は、大統領、副大統領、首相、大臣の就任宣誓での母語使用を認める、というところにある。

この第7次改正により、最高裁にヒンディー語宣誓を違憲とされ職務停止状態にあったジャー副大統領が、「母語宣誓」により、復帰することになる。

ジャー副大統領の母語宣誓問題については、これまでいくつかコメントを書いた（下記参照）。ジャー副大統領は、問題の本質を直感的に見抜く抜群のセンスがあり、2006年革命体制のアキレス腱はアイデンティティ政治にあると見定めた。そして、その弱点中の弱点である言語にねらいを定め、これを逆手にとって多数派に挑戦し、見事、完勝した。以前の記事で、ジャー副大統領を「悪魔の代弁者」とまで絶賛したが、この評価が間違いでなかったことがこれで証明された。

しかし、ジャー副大統領は「悪魔の代弁人」である。自分の勝利をさらに偉大なものにするため、次の挑戦を試みるかもしれない。

第7次改正によれば、大統領らは自分の「母語」で宣誓できる。では、母語とは何か？ 以前にも指摘したように、母語は自分が母語だと思っている言葉にほかならない。

ジャー副大統領の「母語」は世間ではマイティリ語だと言われている。しかし、彼は前はヒンディー語で宣誓した。つまりヒンディー語が彼の母語だったのだ。では、次はどうか？

ひょっとしたら、英語で宣誓するかもしれない。しかし、たとえ英語であっても、それはジャー副大統領の母語ではないと否定する権利は、他の誰にもない。

第7次改正は、革命的なものだ。たとえば、日本で生まれ育ち、ネパールに帰国して大臣になれば、母語たる日本語で宣誓してもよい。あるいは、日本生まれの日本人であっても、退職後、ネパールに帰化し大臣になれば、母語たる日本語で宣誓してもよいわけだ。

ジャー副大統領は、どの言葉で宣誓するのだろうか？ これは見物である。

(参考)

[ジャー副大統領の逆襲](#)

[ネパールのスウィフト、ジャー副大統領](#)

[憲法改正でジャー副大統領復権か？](#)

[悪魔の代理人、ジャー副大統領](#)

[憲法改正で母語使用権拡大か？](#)

[ヒンディーを公用語に：副大統領](#)

[大臣のヒンディー語宣誓](#)

[言語戦争へ向かうか？](#)

[言語問題マッチポンプの危険性](#)

[頑張るジャー副大統領](#)

[インド・コンプレックス知識人](#)

[副大統領のハラキリ問題](#)

18:55 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2010/01/28

[大麻所持で日本人逮捕](#)

谷川昌幸(C)

日本人W氏が26日、トリブバン空港で、大麻樹脂10Kgを持ち出そうとしたとして逮捕され

た。警察はW氏が麻薬密売組織と関係がある、と説明しているが、真相はまだ分からない。有罪なら投獄2～10年の重罪だ(Kyodo, Jan26)。

ネパールでは大麻は以前から用いられていた。しかし、伝統的規制の下での使用と、今日のそれは様相がかなり違うようだ。

今週、警察はカトマンズ盆地だけで若者53人を麻薬犯罪で逮捕した。ネパール人45（女3，男42），パキスタン人3，インド人1，タンザニア人2，他のアフリカ人2。全員が25歳以下（Himalayn Times, Jan25）。

日本人W氏は、もし警察発表が事実だとすると、ネパール警察の警戒強化も、テロ情報による空港警備強化も知らないまま、大麻樹脂を持ち出そうとしたことになる。

ネパールをはじめアジア諸国の多くでは、麻薬犯罪は日本以上に重罪だ。地獄のような異国の監獄で、一生過ごすことになりかねない。ぜったいに手を出さないことだ。

19:21 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [社会](#)

2010/01/27

[革新の韓国・ネパールと立ち枯れの日本](#)

谷川昌幸(C)

JAL倒産に続き、今度は「西武有楽町店」の閉店が決まった。日本国債の格付け（S&P）引き下げも発表された。かつてのドルのように、円が1/2，1/3に暴落する日も近い。円を金に替え庭に埋めておこう。

日本沈没の原因の一つは、制度の立ち枯れ現象だ。世界のグローバル化・多民族化に制度が不適合となっているのに、日本社会にはそれを変えるだけの意欲も力もない。たとえば、今日の朝日新聞に外国人参政権の記事が出ている。

各国を比べてみると	参政権			二重国籍
	国政	地方	付与の要件など	
 スウェーデン	×	○	3年以上の居住	◎
 デンマーク	×	○	3年以上の居住	
 オランダ	×	○	5年以上の居住	◎
 フランス	×	△	EU市民にのみ	◎
 ドイツ	×	△	EU市民に郡、市町村のみ	
 英国	△	△	EU市民に地方、英連邦市民などに国政も	◎
 ニュージーランド	○	○	1年以上居住している永住者	◎
 ロシア	×	○	永住者	◎
 カナダ	×	△	一部の州で一部の英連邦市民にのみ	◎
 米国	×	△	一部の市で付与	◎
 韓国	×	○	永住資格取得後3年以上	
 日本	×	×	—	

国立国会図書館の資料をもとに作製。参政権は、上段が選挙権、下段が被選挙権。○付与、△一部の人、または一部地域で付与、×付与せず。二重国籍は、◎認められる、空欄は認められないか非常に制限的

「外国人参政権」朝日新聞1/27

日本の制度的立ち後れは一目瞭然だ。韓国は日本より民族的同質性 (homogeneity) が高く、かつては日本以上に排外的であったが、グローバル化の本質をいち早く見抜き、大胆に制度改革し、[先述のように外国人雇用許可制に転換し](#)、「不法滞在者」の合法化を断行した。そして、この表のように、外国人地方選挙権も2005年に実現した。

ネパールでも、制憲議会において、二重国籍、クォータ制、連邦制などが議論され、少なくとも制度論そのものは、日本よりもはるかに革新的だ (実践は別)。

日本社会の均質性は、明治以降の富国強兵政策により人為的強制的に創り出されたものである。しかし、強兵政策は大東亜戦争惨敗で挫折し、そして今度は富国政策がグローバル化により破綻の瀬戸際にある。

敬愛するイタリアのように、たとえ国家が破産状態になっても、国民個人は優雅に暮らし続けるというような成熟した市民社会が実現できるなら、それにこしたことはない。しかし、市民社会の歴史の浅い日本には、それはおそらく無理であろう。

とすれば、日本はいまや韓国やネパールの革新的制度改革からこそ学ぶべき秋だ。むろん、韓国、特にネパールの制度改革がどの程度成功するか、それはわからない。連邦制にしても、ネパールの現状では、実現は無理ではないかと思う (形式的連邦制なら可能だろうが)。しかし、少なくともネパールにおける制度改革論議そのものは、日本のそれよりもはるかに革新的であ

り, 断然面白い。

日本は, そうした新しい議論に目を向け, グローバル化時代に適応するための制度改革を進めないと, 根ぐされし, 立ち枯れ, 極東の閉鎖的後進国に落ちぶれてしまうだろう。

23:54 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民主主義](#)

2010/01/25

[倒産JALの能天気全面広告](#)

谷川昌幸(C)

JALが倒産した。つい数年前まで, わが大学でも文系女子学生の就職先人気トップだったのに……。難関を突破し就職した, あの学生はいまどうしているのだろうか？

倒産の徴候はあった。私は年1, 2回海外旅行をするが, この20年ほど, 一度もJALを利用したことがない。友人知人もたいていそうだ。JALが飛んでいても, 最初から選択肢にも入らない。自国民にさえ敬遠される国策航空会社！

国内では, この数年, まずANA, 満席なら仕方なくJALという選択が一般的となっていた。これでは倒産は致し方ない。

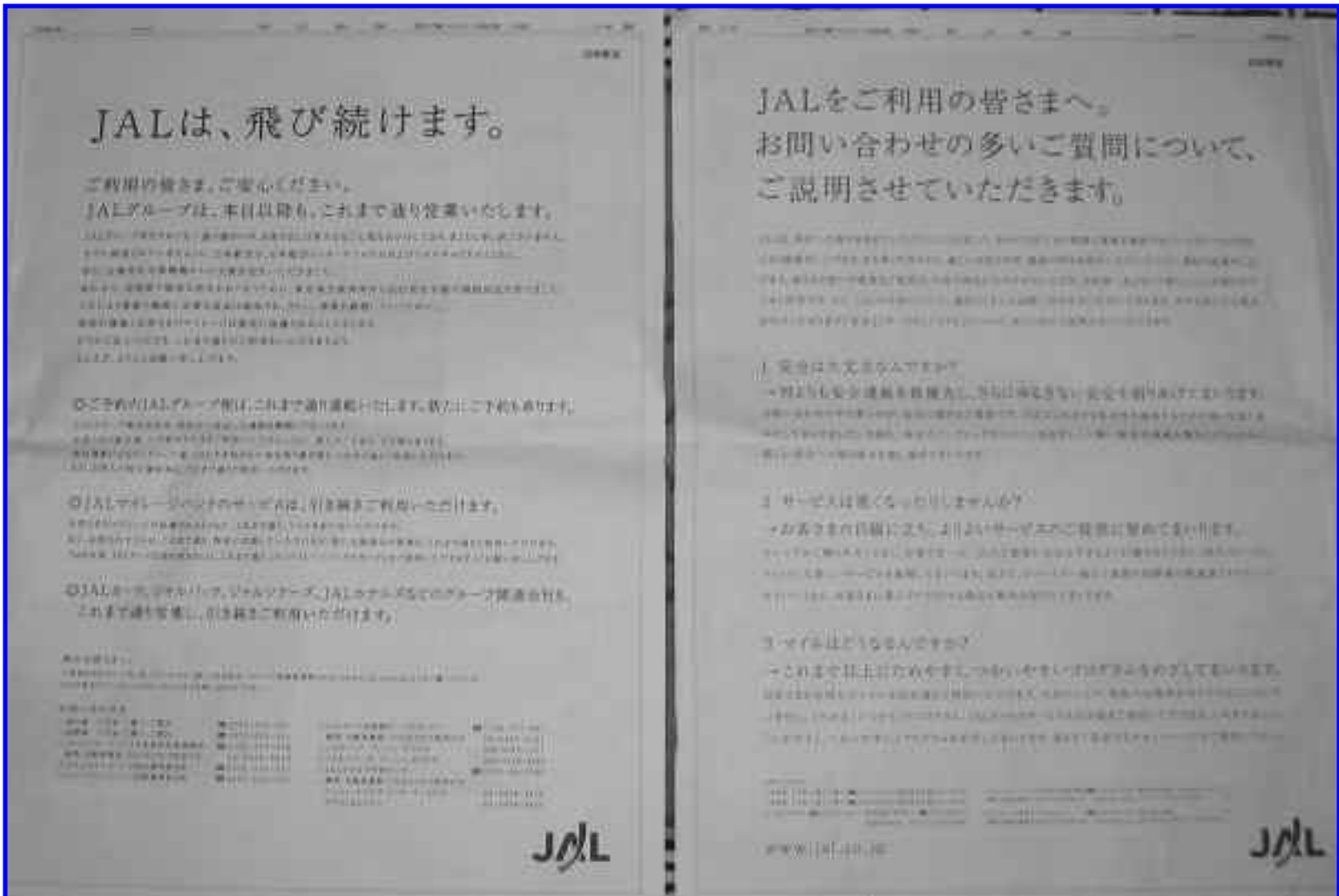
そして, こりゃダメだ, と改めて思い知らされたのが, 1月20日と25日の新聞全面広告。巨大活字でこう書かれている――

JALは, 飛び続けます。
何よりも安全運行を最優先し……

そんなことは安全飛行の実績で示すことであって, タラタラ新聞広告に書いてみても, たいていの人は「こんな宣伝を出すなんて……, 本当は危ないのかな？」と疑うだけだ。

それにもまして庶民の神経を逆なでするのは, 連日の全面広告そのもの。こんな広告に大金を浪費している。まだ親方日の丸。そんなていたらだから, 倒産したのでしょ。

JALの再生はまず無理。デルタか大韓航空か, どこかに吸収合併されるか, 再度倒産し消滅するかのいずれかであろう。こんな会社に税金を投入すべきではない。



朝日新聞のJAL全面広告 1月20日/25日
 23:45 | [固定リンク](#) | [この記事を用意](#) | 経済
 2010/01/24

[Facebookの恐怖・再説](#)

谷川昌幸(C)

やはり削除されていなかった！ 完全削除したと安心していただけなのに、Facebookには私の実在アドレスが残されており、下記のようなメールが送られてきた。(参照：[Facebookの恐怖](#))

Tanigawaさん、Facebookのプライバシー設定をご確認ください
 差出人: Facebook (notification+idmi3~km@facebookmail.com)
 送信日時: 2010年1月23日 22:14:14
 宛先: Masayuki Tanigawa (*****@*****.jp)

こんにちは、Tanigawaさん 最近Facebookのプライバシー設定が一新され、情報のシェアをさらにきめ細かく管理できるようになりました。Facebookサイトにログインすると、あなたに合ったプライバシー設定を選択するステップを説明するチュートリアルに移動します。このチュートリアルは一定期間のみ提供されています。今回の変更後、プライバシー設定をカスタマイズされていないユーザーの方は、お早めに設定の確認を行ってください。

こんなメールに返信したら、アドレスが生きていることの証明になってしまう。たとえ完全削除の方法があったとしても、やたら難しければ、たいていの人は面倒になって、止めてしまう。そ

もそも、本当に削除しているかどうか、信用できない。

1週間ほど前にも、半年以上前の知人からの招待状がまた、しつこく送られてきた(何回目かは失念)。本人が送っているのではなく、Facebookが招待状に応答しない不埒な受信者に、勝手に繰り返し送りつけているのだろう。これから先、何年、何回続くのか？ プライバシーじゃじゃ漏れ、友人の友人のそのまた友人の顔写真まで掲載されている。空恐ろしくなった。



顔写真満載のFacebook招待状。ログインなしで見られる。

こんなプライバシー情報を、某国の某機関（F*I,C*Aなど）が収集し、テロリストのモニタージュ写真作成や、入国拒否者・要注意人物リストの作成に利用しているのだろう。



ビン・ラディン氏モニタージュ写真（AFP）。FBIがスペインの政治家リヤマサレス氏の顔写真を無断拝借して作成。

Facebookとか、この種のサービスにいったん登録したら、一生、某国某機関や某企業などに、追跡されることを覚悟すべきだろう。

11:21 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2010/01/23

[馬場さんと「法の支配」](#)

谷川昌幸(C)

JICAシニアボランティアとして交通指導に当たられていた馬場喜代志さんが任期満了で帰国された。朝日新聞(1/23)が「ひと」欄で紹介し、業績を称えている。



以前にも述べたように（[人治vs法治—信号の近代化論](#)），馬場さんは、「人の支配」のネパールに「法の支配」を持ち込み、日本の権威をバックに大きな成功を収めた。ネパール社会の急速な近代化も馬場さんに味方した。

馬場さんが帰国されても、少なくとも道路交通においては、ネパールが再び「人の支配」に戻ることはあるまい。痛い目にあうのは、本人だからだ。

[人治vs法治—信号の近代化論](#)

[ババ氏解任か?](#)

[ババ氏、歩道再開の快挙](#)

[聖牛と信号：神を殺して人間が食う](#)

[土地勘と常識批判情報の必要性](#)

[信号援助と「法の支配」と宣伝看板消失](#)

18:32 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)

2010/01/22

[外国人研修制度の欺瞞性：報道ステーション](#)

谷川昌幸(C)

昨夜(1/21), 「報道ステーション」が農業研修生による熊本夫婦殺害事件の追跡報道をしていた。それによると、外国人研修制度は「途上国への技術移転, 人材育成が目的」であり, 1年目が研修生, 2~3年目が実習生となる。

- 農業研修生 6511人 (2008年, JITCO)
- 茨城県 2339人 (全国1位)
- 熊本県 481人 (全国2位)

しかし, 多くの場合, 「研修」「実習」は単なる名目であり, 実態は使い捨て可能な安上がりの労働力にすぎない。

熊本夫婦殺害事件の被害者家族2人が「国際研修協力機構(JITCO)」(公益法人, 1991年設立)を訪れ, 事件の説明を求めたのに対し, 安城要常務理事は, こう答えた――

「お金を目的としないので来ている人は一人もいません。……お金だけが目的で来ている人ばかり

ではない。……日本側は人がいない。その部分を埋めてもらうっていうのは一石二鳥であり三鳥だからやっている。」

「この制度がなくなったら、秩序がなくなっちゃうと大変なことになる。これ以上は入らないようにしているから、多くの人は真っ当にやって帰っていく。」

苦しい言い訳だ、「調査捕鯨」以上に苦しい。JITCO自身が、本音では、「研修」「実習」は名目であり、実態は日本の企業や農業のための安上がり・使い捨て労働力だと思っているのではないだろうか。「報道ステーション」コメンテーターの一色清氏は、ズバリそれは「抜け道」だと指摘していた。

外国人研修制度は、典型的な「制度悪」である。それに関わるすべての人をスポイルし、最悪の場合、殺したり殺されたりする。

最大の被害者は、いうまでもなく外国人研修生だ。熊本事件の中国人農業研修生の給与は6万円／月だったという。中国の工場労働者の給与は2万円程度（朝日1/22）なので、それに比べると高いとはいえ、来日してしばらくすれば、同等の仕事をしている日本人の数分の一以下ということにすぐ気がつく。不当だ、差別されている、と感じ、不満を募らせていくのは当然だ。この制度の第一の犠牲者は、外国人研修生である。

第二の犠牲者は、この制度に関与している日本人だ。JITCO職員は、多くの場合「研修」「実習」が単なる建前、名目であり、「抜け道」（報道ステーション）であることを知りつつ、その制度の実施に加担せざるをえない。彼らの精神が著しくスポイルされることは免れない。

また、研修生を受け入れる農家や工場も、「研修」「実習」名目でこき使い、3年でやっかい払いすることへの罪悪感を感じざるをえない。そして、研修生の不平・不満への対応に神経をすり減らし、下手をすると殺されてしまったりする。直接の雇用主もこの制度の被害者である。

このような欺瞞的な外国人研修制度は、お隣の韓国を見習い、廃止すべきだ。

ネパールの人民本位政府も自国の「人民」を安上がりの使い捨て労働者として日本に輸出するような、反人民的なことはすべきではない。「報道ステーション」が指摘していたように、いずれ中国の賃金が上がり、中国からは研修生が来なくなる。ネパールは、その穴埋めをさせられるにすぎないからである。

(参照) 2010/01/20 [ネパール人研修労働者受入](#)



『〈研修生〉という名の奴隷労働：外国人労働者問題とこれからの日本』花伝社，1,575円，2009年2月

19:58 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)
2010/01/20

[ネパール人研修労働者受入](#)

谷川昌幸(C)

ネパール労働省は1月初旬，国際研修協力機構（JITCO）プログラムにより渡日するネパール人研修労働者のための事前教育プログラムを決定した。詳細は，2月初旬のJITCO職員訪ネの際，決定するという。ネ日研修生協定は，2003年12月3日に調印されている。

●事前研修(ネパール)

日本語＝読み書き：60日(90時間)，会話：60日(90時間)，専門用語：6時間／3日

日本文化＝30時間(10日)，日本の食事＝30時間(10日)

受講料＝7000ルピー，研修生斡旋＝172業者

●来日後の研修

職業研修＝1ヶ月

外国人研修労働制度は，以前は「現代の奴隷制」と呼ばれるほど劣悪な労働条件であった。その後，批判され改善されたと聞かすが，実態はどうであろうか？

研修生，雇用主夫婦を殺害し自殺(2009.11.12)

熊本県で，中国人研修生が研修先の農家の夫婦を殺し自殺。農繁期には朝5時から深夜まで働かされていたという。

外国人研修生の死者33人(2008)

交通事故4，漁船1，仕事中6，自殺1，病気15，その他6。研修生は20-30代であり，過労が主な原因と見られている。

研修生の労働条件(日弁連)

平均時給：300-500円，残業時間(月)：80時間以上。100時間以上も少なくない。

韓国では研修労働制，廃止

宣元錫氏(朝日1/9)によれば，韓国では日本をモデルにした外国人研修制度は問題が多いためすでに廃止し，正規労働者として受け入れる雇用許可制にした。1月18日，韓国とネパールは，この労働者受入協定を2年更新した。韓国は，制度的にも多くの点で日本を追い越し，日本は変化に対応できない極東の後進国として取り残されつつある。

——いま日本企業がネパールに目を向け始めたのは，おそらく中国や東南アジアの人件費が上がり始めたからであろう。劣悪な労働条件に耐えられる勤勉な労働者を捜していたら，ネパールがあったというわけだ。これは，研修労働者ではないが，1月12日，長崎の漁船が転覆し，乗組員10人が行方不明になった。そのうち6人は中国人労働者。これを見ても，日本の工場，農漁業などの労働現場で外国人労働者がいかに必要とされているかがよく分かる。

しかし，ネパール人研修労働者を受け入れるのであれば，制度を整え，日本人労働者と同等の権利をきちんと保障すべきだ。「研修」名目で低賃金を正当化するような姑息な利己主義でネパー

ル人研修生を大量に受入始めたら、必ず問題が生じる。日ネの友好関係も瞬く間に破壊されてしまうだろう。

(参照)

[対日ネパール人輸出, あるいは新三角貿易](#)

[拝啓 マオイスト労働相殿: これが研修奴隷だ!](#)

[共産革命と対日「人民」輸出](#)

9:19 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)

2010/01/13

[マオイストで儲ける資本主義](#)

谷川昌幸(C)

現代資本主義のすごさは、テロでも革命でも、いや資本主義打倒のマオイズムですら、金儲けのタネにになってしまうことだ。以前に指摘したように、最近、ネパールHPの連動広告に、日本人向けが激増した。技術的には簡単なのだろう。

プラチャンダ氏の1月9日の危険な冒険演説記事を見ると、ちゃんと日本のネパール料理店の広告が出てくる。しかも、マオイスト・プラチャンダ議長の頭の上に乗っかって! (広告主のネパール料理店がそれを指示したわけではあるまい。ここでは、特定の料理店のことではなく、現代社会における資本主義的経済活動の特質一般を問題にしている。誤解なきように。)

Fight for sovereignty continues; Madan Bhandari, King Birendra killed for not ceding to India: Prachanda

KESHAV P. Koirala

KATHMANDU, JAN 09 -

UCPN (Maoist) Chairman Pushpa Kamal Dahal on Saturday stated that CPN-UML General Secretary Madan Bhandari and King Birendra were assassinated for not giving in to India.

Addressing an interaction on national sovereignty and civilian supremacy organised by his party in Kathmandu today, the Maoist Chairman said the fight for building an independent Nepal continues, and there will be no compromise on the issues of nationality.

Saying no force can stop the movement for national sovereignty and civilian supremacy, Dahal added that the Maoists will talk to India only after building a sovereign Nepal.

On Dec. 22 in Kathmandu, he had said his party will pretty soon hold talks with New Delhi which, according to him, was pulling wires of all parties in Nepal, and as all negotiations with other internal players could not make a headway to resolve the political crisis in the country.

He charged that backed by foreign powers some parties are hatching plot to dissolve the Constituent Assembly and thwart the ongoing peace process, and thereby ending the national sovereignty and civilian supremacy.

"Birendra and Madan Bhandari were killed because they did not bow," he said.

インド料理シバ (Indian Restaurant SIBA)

ランチ700円~ディナ1000円~バ
テイ2400円→食べ放題の+み放題

CLICK
HERE



Maoist Chairman Dahal addressing a mass gathering in Kathmandu on Dec. 22. (Photo: skanspu)

eKantipur, Jan13

たくましい資本主義! マオイスト・プラチャンダ議長がいかに資本主義打倒を叫ぼうが, 叫べば叫ぶほど, 過激行動に走れば走るほど, 宣伝価値が高まり, その上に乗っかっている資本主義は儲かる。

これでは, 長期的に見ると, マオイズムにはとうてい勝ち目はなさそうだ。



(参照) 2009/12/02 [ネパールHPのグローバル化](#)

13:18 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)
2010/01/12

[マオイストとインドと国王：方向転換か?](#)

谷川昌幸(C)

マオイストが1月5日、闘争第4段階の「新戦術」を発表し、帝国主義(インド膨張主義)を主敵とすることを宣言した(Red Star, Jan7)。

マオイストの新スローガン:

- ・ 愛国共和派は団結せよ!
- ・ 国家=国民独立を守れ!

ネパール愛国主義, 反インド・ネパールナショナリズム全開だ。この他に副スローガンが13あり, そこでも愛国主義, ナショナリズムが強調され, 連邦制は「人民連邦共和国, 万歳!」の中に1カ所でてくるだけだ。

これは驚くべき変化だ。連邦制で結果的にネパール解体に動いていたマオイストが, 少なくとも方向性としては, 180度転換し, 愛国主義, ナショナリズムによる国家=国民統合を絶叫し始めたのだ。

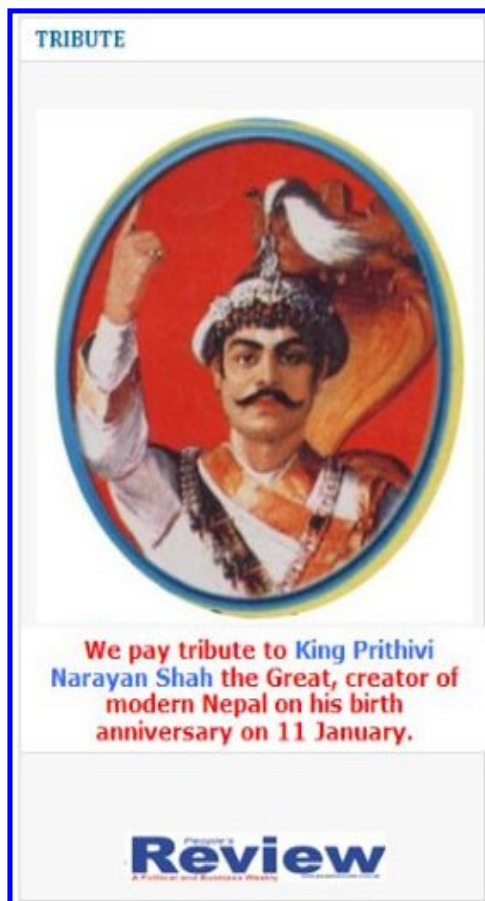


Telegraph, Jan10.

そして, さらに驚くべきは, プラチャンダがインド筋によるプラチャンダ暗殺謀略の存在を示唆したことだ(Telegraph Jan10)。

プラチャンダによれば, 共産党のマダン・バンドリとビレンドラ国王は, 立場は違うが, ともに強固なナショナリストで, ネパール国家=国民独立を強硬に唱えたため(インド筋により)暗殺されてしまった。「そして, われわれもまた『国家=国民独立』という同じ問題を訴えているが故に, 私の生命にも危険が及んでいる感じがする。」

これは, いったいどういうことか? 連邦制や自治州や民族自決は, どこに行ってしまったのか? ビレンドラ国王をナショナリストとして称賛し, 「ネパール初代大統領」にするというかつてのマオイスト案を, ここで再びメディアに語るのは, なぜなのか? どうも解せない。



プリトビナランヤン・シャハ王称賛。People's Review, Jan9

20:26 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)
2010/01/11

[バタライ博士絶賛：プラシャント・ジャー](#)

谷川昌幸(C)

プラシャント・ジャー氏が『ネパリタイムズ』(#484)でバブラム・バタライ博士を絶賛している。Prashant Jha, "Without Baburam Bhattarai, the Maoist will repeat history," *Nepali Times*, 8Jan-14Jan 2010.

博士は、和平をもたらした民主的共和主義の旗手であり、彼の足を引っ張るようなことをすると、憲法制定も平和構築も難しくなるというのだ。この評論は、バタライ博士絶賛にはちがいないが、嫌みがなく、論理明快で読後感は爽快とすらいってよい。ジャー氏によれば――

プラチャンダ: 卓越した指導者。組織を握り、様々な利害を調整し、カリスマ的政治力を持つ。
キラン: 多様な人々の支持を得ている。たとえば、根拠地に地盤を持つビップラブ、策士のクリシュナ・マハラ、弁の立つGP。ガジュレル、エスニック代弁者のデブ・グルン、そしてPLAやYCLの幹部たち。

バブラム・バタライ博士は、党内にこのような強固な支持基盤を持たない。博士は、コネ政治に依存するのではなく、理念をもち、これを実践に移すことのできる人物だ。博士は、戦いを理論化し、和戦の時を見極め、それを党に説明し認めさせた。共和制と制憲議会を実現させ、党の評価を党外へも拡大した。いまマオイスト側で制憲議会や和平交渉を取り仕切っているのは、博士とその支持者であるK.デブコタやアナンタらである。

バタライ博士は、ネパール・マオイストの知恵袋だ。連邦制，国家構造，タライ問題，階級と民族，半植民地的対印関係などの理論化は，すべて博士による。対印従属関係については，とくに"Political-Economic Rationale of the War(1997)が重要。

その反面，これがバタライ博士をインドの手先として糾弾する口実となっていることも事実だ。キランは，バタライ博士にイデオロギー的コンプレックスを感じ，対抗心から博士を修正主義者と呼び，攻撃している。プラチャンダ議長も，もちろんバタライ博士の党派を超えた人気，政治能力，国際的信用を恐れ，博士批判で仲間をつなぎ止めようとしている。

マオイストは，目指す目標は同じでも，いかにそれを実現するか，その手段において，大きく異なっている。キランは，階級闘争と都市蜂起で次の段階に進みたいと考えている。

バタライ博士は，諸階級・諸民族の統一戦線が必要と考え，大衆動員と憲法闘争と選挙を組み合わせ，国家権力を握ろうとしている。博士はネパールの地政学的限界を熟知し，プラチャンダの個人的大衆受けともキランの猪突猛進愛国主義とも違う，もっと建設的な対印関係の構築を考えている。博士は，インドを利用しつつ国力を強め，構造的インド依存を変えていく方法を熟知している。

いうまでもないことだが，バタライ博士は根っからのマオイストだ。決して社会民主主義者ではない。しかし，博士は，マオイストが様々な利害を考慮し，暴力依存とならないようにしようとしている。これが成功するためには，党外の支持とプラチャンダの支持が必要だ。もしプラチャンダが，再びバタライ博士を排除し，キランに与するようなことをすれば，マオイストはこれまでの成果を台無しにし，20世紀の他の共産党と同じ誤りを繰り返し，そして失敗するであろう。

——以上が，ジャー氏の議論の概要だ。賛否は別として，これは非常に優れた，面白い評論だ。人民戦争の悲惨はいうまでもないが，少なくとも，こうした論客を生み出したという点では，文化的には決して不毛ではなかったとはいえるであろう。

11:02 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [マオイスト](#)

2010/01/09

[プラチャンダ／バタライ分割統治工作：インド](#)

谷川昌幸(C)

インドが，プラチャンダ議長の接近を逆手にとって，バブラム・バタライ副議長を首相候補にせよ，と要求しはじめた (Telegraph, Jun8)。

プラチャンダとバタライは，もともと別系統で，あえていうなら反1990年憲法体制で共闘しているにすぎない。この二者の間に楔を打ち込む作戦は，誰でもすぐ思いつくことだが，うまくやれば効果は絶大だ。インドはそれを狙っているらしい。

この反マオイストの動きと連動していると思われるのが，NCとRPPの接近。彼らは，連邦制をやめ，1990年憲法体制の修正か復活を狙っている。今のところ，王政復古までは難しいが，欧米の連邦制原理主義の宣教活動が弱まれば，大統領・首相制単一国家の可能性は十分にあり得る。スジャータ大統領，バタライ首相なんていうことになるかもしれない。

15:16 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [外交](#)

2010/01/07

[Trust me! 信じられない？](#)

谷川昌幸(C)

日本の政治家のカタカナ英語の危険性については、これまでに繰り返し指摘してきた。たとえ英語ペラペラでも、外交では、首相や大臣は英語は使うべきではない。ましてや、半ペラでは。

いまいちばん危険なのは、なんといっても鳩山首相だ。昨年11月のオバマ大統領来日の時も、国家外交の鉄則を忘れ、半ペラ英語で"Trust me"とやってしまった。危ないなあと思っていたら、案の定、これが日米間の相互不信のタネになり始めた。

朝日の山中季広ニューヨーク支局長によれば、鳩山首相がオバマ大統領に"Trust me"といったのは、11月会談とその後の書簡においての2回だという。2回も念押しして、「(神にかけて約束する)私を信頼して」といわれたら、敬虔なオバマ大統領やアメリカ国民が首相の言葉を信じたのは当然だ。ところが、最近の首相の言動をみて、アメリカ側は首相がその神聖な約束を反故にしようとしているのではないかと疑い始めた。当然といわざるをえない。首相の半ペラ英語のせいで、日米関係に不吉な暗雲がたち始めた。

ところが、それにもかかわらず、山中支局長は記事の最後を「英語はつくづく難しい」という言葉でまとめ、この問題を鳩山首相の英語力に矮小化してしまった。

そうではない。ここで問われるべきは、日本国民を代表する鳩山首相が相手国の言葉で外交を行うという卑屈な態度を得意満面でやってきたこと、そのことに他ならない。外交を相手国の言葉でやれば、土俵は相手国側のものとなり、最初から負けだ。もし鳩山首相が日本語で「私を信頼して」と言い、通訳がこれを"Trust me"と訳したのであれば、ああごめん、あれはちょっと不正確でした、と弁解する余地がないわけではない。「私を信頼して」という日本語は「何も具体的なことは約束していません」という意味ですよ、と開き直ることもできる。ところが、半ペラ英語で"Trust me"と言ってしまうと、その言葉の解釈権(真の意味)はアメリカ側のものになってしまう。

山中氏はニューヨーク支局長であるがゆえに、言葉の行き違いによる相互不信の拡大、日米関係の悪化を強く危惧されているのだろう。しかし、氏は鳩山首相の英語使用外交そのものを問題にせず、いやおそらくはそのこと自体は積極的に肯定しつつ、英語力の不足をもっぱら問題にし、何の疑問をも抱くことなく、"Trust me"の真の意味をアメリカ人たちに尋ねている。兵庫県で3年間英語を教えた経験のある米保険会社員、日米外交史に詳しいボストン大学教授、ノースウエスト大学の政治学教授、愛知県内で英語を教えた経験のある米弁護士。

日本人は、日本国首相の発言の「真意(真の意味)」をアメリカ人に尋ねざるをえない! これがいかに卑屈なことか、いかに倒錯した奴隷根性かはいうまでもあるまい。

*山中季広「トラスト・ミー 重い語感『守らないと破局』」朝日新聞, 2010.1.7

[北朝鮮「飛翔体」と防衛省カタカナ英語の危うさ](#)
[英語植民地の「ミサイル発射」誤報調査報告](#)
[麻生首相の「売国的」英語会談](#)
[広島・長崎「平和宣言」批判](#)
[オバマジョリティとObamajority](#)

[なめられる日本とネパール：欧米瘦身広告](#)

谷川昌幸(C)

朝日新聞(1/6)に瘦身広告批判記事が出ている。ラルフローレンが、モデル女性の腰を異常に細くデジタル修正した写真をつくり、何とこれを東京でのみ使用していたが、それがネットで世界中にばらまかれ、ラ社非難が巻き起こっているというのだ。



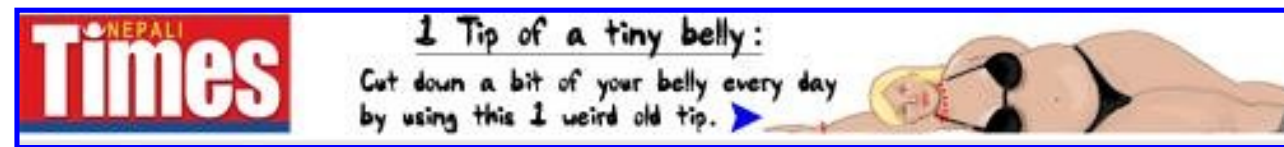
解説記事によれば、不自然な瘦身はもはや欧米でははやらない。なぜならば――

「米国では、やせた女性が雑誌やテレビでもてはやされ続けたことが一因で、女性が摂食障害を起こすことが社会問題化してきた。瘦身願望がこうじて深刻な拒食症や大食症、うつ病に発展するとわかってきたからだ。」

文化帝国主義は、本国ではもはや時代遅れとなった瘦身イデオロギーを、文化植民地たる日本に巧妙に押しつけ、えげつなく儲けている。阿片を売りつけ、ぼろ儲けしたのと同じ手口だ。

この日本より、もっとなめられているのが、ネパール。 [先に批判した瘦身広告が、他のメディア](#)

にも広がっている。マオイストは、こんな文化侵略こそ徹底的に糾弾すべきだ。もちろん、ミスコンもケシカランが。



ネパリタイム

ズの醜悪広告

23:02 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)

2010/01/05

[連邦制を国民投票で：スジャータ・コイララ副首相](#)

谷川昌幸(C)

1. 連邦制国民投票の提案

副首相・外相にしてノーベル平和賞候補者の娘たるスジャータ・コイララ氏が、連邦制の可否は国民投票で決めようと提案し、またまた大騒ぎになり始めた。以前、スジャータ邸におじゃまし、お茶したとき、連邦制の話になり、否定的な意見を述べた記憶がある。

2. スジャータ副首相の「貴族の義務」

スジャータさんは、名門中の名門コイララ家の一員であり、いまやメディアも「副首相・外相・ノーベル平和賞候補者の娘」と紹介している。

当然、スジャータさんには「貴族の義務noblesse oblige」がある。貴族は人民ではない。貴族はエリートであり、大衆とは別の世界の倫理に従う。ドンキホーテこそが貴族の鑑。いかに多勢に無勢であろうと、高貴なエリート主義に立ち大衆の卑俗な民主主義を徹底的に批判すべきである。民主主義など、イギリス名門貴族のチャーチルが喝破したように欠陥だらけの二流の政治理論である。欠陥は批判されて当然だ。

3. 消極的少数決：包摂参加民主主義の欠陥

ネパールは、欧米先進国の民主化支援ロビー(人権教・民主主義教)に引きづり回され、近代主権国家の形成も未完なのに、無理矢理、ポストモダンの多極共存型包摂参加民主主義や民族自治連邦制を押しつけようとしている。

近代民主主義が多数決なのに対し、これは少数が拒否権をもつ消極的少数決である。たとえば、暫定憲法では多くの事柄が全党一致か2/3多数決をとっている。逆に言えば、どこかの党、あるいは議会の1/3が反対すれば、何も決まらない。

ジャー副大統領のヒンディー語就任宣誓問題でも、結局、マオイストの反対で第7次憲法改正ができず、決着がつきそうにない。ジャー副大統領は、職務停止のまま、在任し続けることになる。

連邦制ともなれば、自治州が大きな拒否権を持つことになる。また包摂参加民主主義で議会も行政組織もカースト/民族比例制(クオータ制)となり、ここでも各カースト/民族が大きな拒否権を持つ。どこもかしこも拒否権だらけで、国家の意思決定はますます困難となる。

貴族エリート主義は、大衆民主主義を「喝采による政治」「衆愚政治」と揶揄し批判してきた。いまや、その矛先は、ポストモダン包摂参加民主主義のこの何も決められない消極的少数決に向

けられるべきだろう。

4. 消極的少数決と暴力の支配

グローバル化は、中世への先祖返りである。本物の中世には貴族がいて、エリート支配により社会統合を維持していた。いま蘇りつつあるポストモダン中世には、身分としての貴族はいない。貴族身分も貴族的精神も存在しないところで権力が多元多層分化し、民族自治・文化自治の名で諸集団が拒否権を持ち、消極的少数決が広まると、結局は、非公式の暴力の支配となる。

ネパールを見よ。政治が何も決められない間に、ネパールは世界資本主義の中に組み込まれていき、金権支配が日々強化されている。庶民は、国王や高位カーストの封建的支配からは解放されても、いまやそれ以上に冷酷苛烈な資本主義的支配の下に置かれつつある。

それに耐えられなくなった人々の多くが救いを求めたのがマオイストだが、こちらは、結局は暴力の支配である。公権力の弱体化に比例し、カネや暴力の支配がはびこる。

5. スジャータ副大統領とライジングネパール社説

ネパールに必要なのは、消極的少数決＝不決断をもたらす包摂参加民主主義ではなく、本物の貴族エリート主義ではないか？ スジャータさんが本物の貴族エリートかどうかは分からない。しかし、連邦制万歳と喝采しつつ、具体的なことは何一つ決められず、したがって憲法定も不可能な現状に対し、「連邦制の可否は国民投票で決めよ」と提案したのは、立派な貴族的行為である。

そして、注目すべきは、時流迎合大手メディアがスジャータ提案に批判的なものに対し、政府御用新聞ライジングネパール(1/4)が社説「国民投票：一つの意見」で、スジャータ提案を高く評価していることだ。

「連邦制の具体案について政党の意見がまとまらない現状では、国民投票は悪くはない考えだ。」「政党も専門家も連邦制移行手続きについて不明確で意見が分かれているのだから、国民投票提案は名案である。」

現状では、どうみても連邦制移行は無理であり、したがって新憲法も制定できない（連邦制だけ先送りする手もあるが）。スジャータ副首相とライジングネパール社説がいうように、国民投票は一つの妙案である。

あるいは、御尊父ギリジャ翁にノーベル平和賞を授与し、その権威をもって連邦制問題に決着をつけ新憲法を制定する方法、これも妙案である。何よりもよいのは、カネがかからないことだ。

* Telegraph, Nepal FM Sujata demands Referendum for Federalism, Jan2,2010

* Telegraph, Nepal DPM Sujata's Referendum Demand draws criticism, Jan4, 2010

* Rising Nepal, Referendum: An Opinion, Jan4,2010

* Nepalnews.com, Maoists not to support constitution amendment bill, Jan4,2010

11:02 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2010/01/03

[グーグルで秘所をのぞく](#)

谷川昌幸(C)

Google Earthの解像度が、かなり上がった。MSNやYahooが競争に参加してくれると、解像度がさらに上がり、軍事基地にどのような武器があり、兵隊たちがどのような行動をしているかまで、手に取るように分かるだろう。文民市民は防犯カメラという名の監視カメラで私生活を徹底的に監視されているのだから、軍人たちはそれ以上に完璧に一挙手一投足まで市民に監視されて当然だ。あとしばらくすれば、グーグルのおかげで、そのような万人が万人を監視する社会になるであろう。(下図はブログ用に解像度を大幅に下げています。鮮明な実物画像はグーグルをご覧ください。)



アメリカン・クラブ (カトマンズ)

車は完全に識別できる。



[以前話題にした自衛隊小倉基地。左は](#)

[北九州市立大学。](#)



三菱長崎造船所の軍艦

17:54 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [平和](#)
2010/01/02

[タマン自治州宣言の非合法性と科学性](#)

谷川昌幸(C)

Red Star(Dec17)が、「タマン自治州宣言」の様子を報道している。

時：12月16日

所：カカニ村ラニパウラ（下図参照）

主賓：UCPN-M副党首バブラム・バタライ博士

式典ではバブラム副党首が「タマン自治州」を厳かに宣言し、これは歴史的な快挙であり、誰にも否定はできない、と語った。副党首にして博士のバタライ同志によると、この州宣言は、暫定憲法が連邦制を定めているから、合憲・合法である。そして、タマン自治州はタマン民族だけのものではなく、州内のすべてのカースト／民族のものであり、全州民は協力して反動勢力や外国勢力からこの州を守らなければならない。

ちょっと苦しい、いや、かなり苦しい。「自治州宣言」式典委員長カマンシン・ラマ氏によると、タマン民族は3000年前から先住民としてここに住んでおり、したがってここはタマンの土地だ。ところが、「タマン民族解放戦線」のネパール・スリヤマン・ドン・タマン代表によると、タマン自治州は、タマン民族だけのものではなく、ここに住む様々なカースト／民族の土地でもある。タマン自治州はタマン民族のものかどうか、肝心のところが、ばらばらなのだ。

しかし、マオイストの一方的自治州宣言が、バタライ博士の権威にもかかわらず「合憲・合法」でないことは明白だが、まったくでたらめかということ、必ずしもそうではない。党常任委員・書記のバハドゥル・ボガティ（ディワカ）同志によると、「人民運動」が連邦制を求めたのに、現政府は外国勢力に操られ、人民の意志に従っていない。そこで、地域から自治州宣言をして、連邦国家を実現していく、というのだ。

民主主義は、アメリカ建国史を見ても分かるように、もともと下から、つまり地域自治から積み

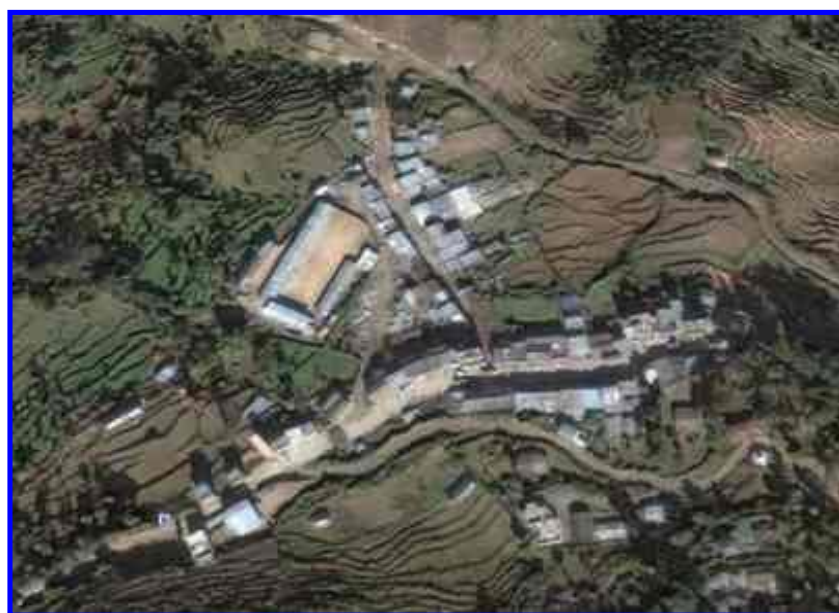
上げていくものだ。その観点からいうと、マオイストの一方的自治州宣言は、アメリカ民主主義のお手本に従うものであり、民主主義の王道を行くものといってもよい。アメリカ独立革命だって、国王陛下のイギリス政府からすれば、不敬な植民地の反乱だったことはいうまでもない。

また、一方的自治州宣言の根本にある地域主権の考え方は、グローバル化の流れにさおさすものに他ならない。マオイストのやっていることは、一見、無茶なようでも、大きな歴史の流れから見ると、案外、歴史的かつ先進的、つまりマオイスト用語でいえば「科学的」なことかもしれない。

評価はあと知恵、結果によって定まる。が、おめでたいお正月、今日のところはマオイストの科学的先見性を誉め称えておこう。



カカニ村ラニパウラ(Google Earth)



ラニパウラ(Google Earth)

12:45 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民族](#)
2010/01/01

神仏の新春長崎

谷川昌幸(C)

長崎は、生活の中に神仏が生きている街だ。新春の午後、近所の神社仏閣を歩いてみた。



諏訪神社 1

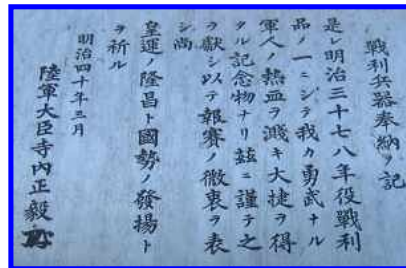


諏訪神社 2



松森天満宮

戦利品の砲弾が祭られている。





聖福寺



長崎観音 長崎駅3分



中町カトリック教会1



中町カトリック教会2



中町カトリック教会3



長崎駅前の現代の神々

22:47 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)